



持続可能な資源循環型農業を展望する和牛の歴史研究

法文学部 准教授 板垣 貴志

板垣研究室では、全国各地に残されている和牛に関する歴史資料の調査し、和牛と日本社会の関係の歴史を研究しています。かつての和牛は、田畑で耕作するために飼育されており、ふん尿は堆肥として活用されていました。

現代日本の畜産が、輸入飼料依存体質に起因する食糧自給率の低下や畜産経営の脆弱化、家畜ふん尿による汚染の深刻化などの大きな問題を抱えるなか、かつての農業は、〈土-草-牛の資源循環型農業〉として放牧慣行とともに再評価されつつあります。この研究では、日本の畜産の歩みを実証的かつ総合的に把握し、かつての農法を美化することなく歴史学的性格規定を明確することで畜産史と環境史とを架橋し、社会的需要が高まっている資源循環型農業を展望することを目的としています。



学生たちと島根県畜産技術センターで歴史資料調査をした際に厩舎を見学しました。



広島県畜産技術センター（旧農商務省七塚原種牛牧場）のポプラ並木



全国和牛登録協会（京都市）に残されていた歴史資料